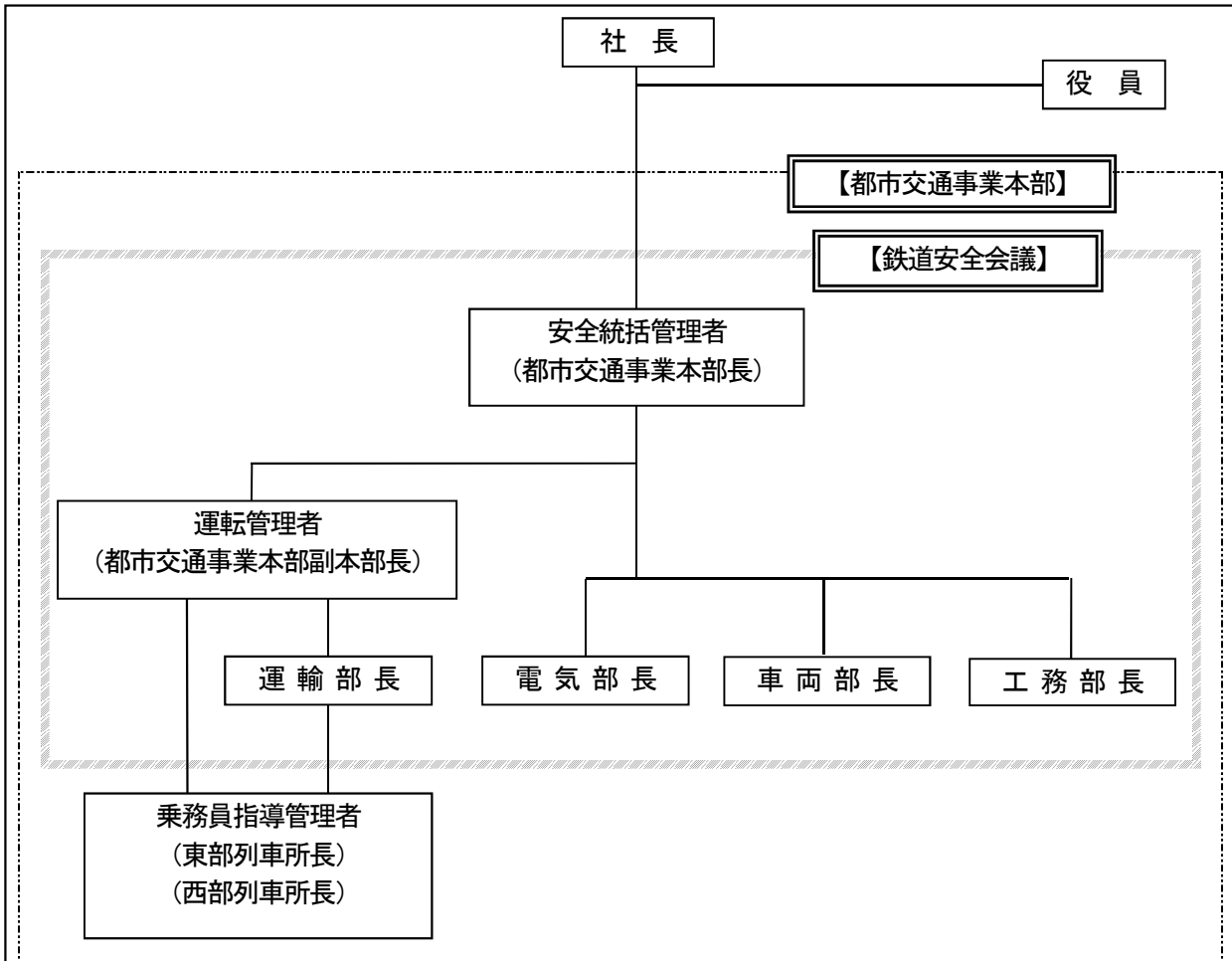


IV. 安全管理体制と方法

1. 安全管理組織体制（概要図）

安全管理の推進に特化する組織として、「鉄道安全会議」を設置しています。



2. 管理者の役割

都市交通事業本部に安全統括管理者等を選任し、輸送の安全確保に係る役割を定めています。

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者 (都市交通事業本部長)	輸送の安全の確保に関する業務を統括管理する。
運 転 管 理 者 (都市交通事業本部副本部長)	安全統括管理者の指揮の下、列車の運行、乗務員の資質の保持、その他運転に関する業務を管理する。
運 輸 部 長	運転管理者の指揮の下、その業務を補佐する。
乗務員指導管理者 (東部・西部各列車所長)	運転管理者の指揮の下、乗務員の資質の保持に関する事項を管理する。
電 気 部 長	安全統括管理者の指揮の下、電気施設に関する事項を総括する。
車 両 部 長	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を総括する。
工 務 部 長	安全統括管理者の指揮の下、軌道・土木・建築施設に関する事項を総括する。

3. 安全管理方法

3-1 鉄道安全会議

鉄道安全会議は、都市交通事業本部トップ（安全統括管理者以下、運転管理者、鉄道の各部長〔運輸部、電気部、車両部、工務部〕等）により構成され、安全に関する事項について、検討、決定及び指示する会議体です。原則として月2回開催されます。

3-2 鉄道安全連絡会等の各種定例会議

鉄道各部の課長クラスで構成し、各部の業務及び事故・トラブルについて情報を共有し、原因・対策等について協議・検討等を行う会議体です。さらに、業務遂行上の種々の案件について鉄道安全会議へ上申するとともに、鉄道安全会議での決定事項、指示事項等を円滑かつ確実に遂行していくため、相互確認する会議体でもあります。

3-3 非常時対応体制

鉄道非常事態（列車運転事故、災害〔風水害、地震、火災〕等により会社の施設内で多数の死傷者を生じ、または会社の施設の復旧に長時間を要する事態）の発生に備え、非常事態対策規則等を策定し、非常時対応体制（全社）を構築しています。鉄道非常事態が発生すると、鉄道非常事態対策本部を設置し、救護、復旧、輸送の応急処置を迅速的確に行い、被害を最小限にとどめることに努めます。

また、鉄道非常事態には至らないものの、都市交通事業本部として、警戒、復旧、救護等の措置を講じる必要のある事態の発生に備え、都市交通事業本部内規として各部の任務等に関する基本的な事項を定め、連絡、連携を円滑にし、被害を最小限にとどめる体制をとっています。

3-4 PDCAサイクルの活用

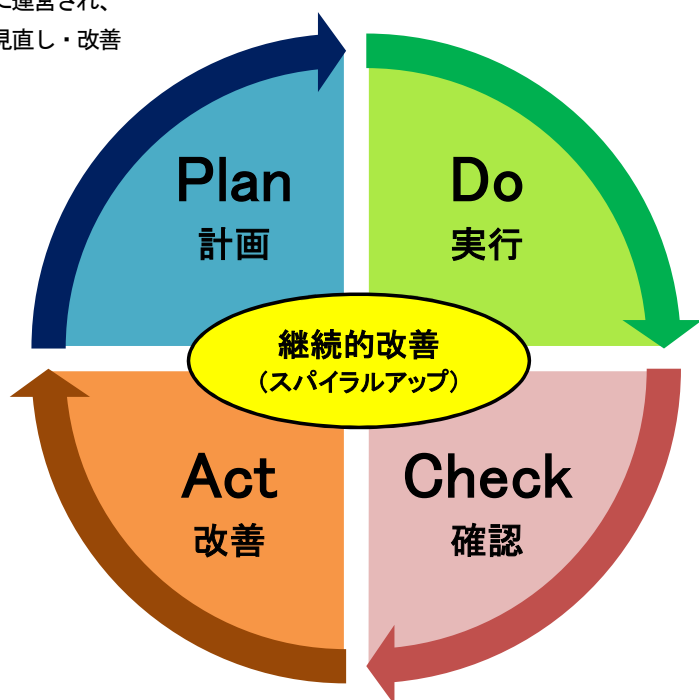
安全確保に関する種々の取組みを安全マネジメントシステム（P=Plan〔計画〕・D=Do〔実行〕・C=Check〔確認〕・A=Act〔改善〕）により機能させ、より精度の高い安全確保を目指して、スパイラルアップを図っていきます。

PDCAサイクルのAに該当するものとして、都市交通事業本部の各部長から社長へ安全施策の実施結果を報告するマネジメントレビュー※を実施しています。

※マネジメントレビューとは、安全管理体制が適切に運営され、有効に機能していることを確認し、必要に応じて見直し・改善を行う活動です。



安全施策 2014 マネジメントレビュー



3-5. 運輸安全マネジメント評価

国土交通省が実施する運輸安全マネジメント評価は、運輸事業者の安全管理体制が適切に構築され、機能しているかについて確認・助言が行われるものです。

当社では、平成 19 (2007) 年 6 月に第 1 回目の評価を受け、以降、平成 25 (2013) 年度まで計 6 回の評価を受けています。

6 回目となる平成 25 (2013) 年 10 月の運輸安全マネジメント評価では、安全管理体制の維持及び改善に関する取組みについて一定の評価を受け、次回の評価が前回評価から概ね 2 年後となる旨、国土交通省より通知がありました。この際、前回評価後ほぼ 1 年後に安全管理の取組み状況を中間報告することとなっており、国土交通省に対し、平成 26 (2014) 年 10 月に報告書を提出しています。



平成 25 (2013) 年度の運輸安全マネジメント評価

V. 鉄道事故等と再発防止措置

1. 鉄道運転事故・インシデント・輸送障害・電気事故の発生件数

【事故等報告（鉄道事業法・鉄道事故等報告規則に基づく報告）】

平成 26 (2014) 年度に鉄道運転事故は発生していません。また、平成 26 (2014) 年度は、インシデントが 1 件、輸送障害が 4 件、電気事故が 1 件発生しました。

		平成 26 (2014) 年度	平成 25 (2013) 年度	平成 24 (2012) 年度
鉄道 運 転 事 故	列車衝突事故	0	0	0
	列車脱線事故	0	0	0
	列車火災事故	0	0	0
	踏切障害事故	0	0	2 (2)
	道路障害事故	0	0	0
	鉄道人身障害事故	0	4 (4)	9 (9)
	鉄道物損事故	0	0	0
合計	0	4	11	
インシデント		1	0	0
輸送障害		4 [3]	5 [5]	4 [2]
電気事故		1※	0	0

注：() 数は、線路内立入り等による人身障害事故件数 [内数]

[] 数は、自然災害・第三者行為等による件数 [内数]

※は、車両点検作業中の感電事故